

JEITA組込み系ソフトウェア・ワークショップ2011

日本の組込み系開発におけるアーキテクト ～開発現場に求められるアーキテクトとは～

- 主催：ソフトウェア事業基盤専門委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約100名

概要

日本の組込み系ソフトウェア開発の強みは、擦り合わせによる高品質開発にあると言われていたのですが、大規模化・複雑化・短納期化・多機種化の潮流の中で今後も国際競争力を維持していくことが難しくなっています。このような状況への対処として、欧米流のアーキテクチャ設計の導入・強化が注目されており、そのためにアーキテクトが必要であると考えられます。今回のワークショップでは、日本の組込み系ソフトウェア開発で求められるアーキテクトとは何かを命題

に、各講演者にご講演いただきました。

東京大学 飯塚悦功教授の基調講演「私の組込アーキテクト像」を皮切りに、細田 潤氏（カシオ計算機（株））、春名修介氏（パナソニック（株））にアーキテクトの事例についてご講演いただき、最後に「全員参加103人ワークショップ：アーキテクトとは？ その役割は？ 徹底議論！」と銘打った討論セッションを開催し、参加者全員に自由にご意見をいただき、活発な意見交換が行われました。

プログラム

- 開会の挨拶「ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動についてワークショップ2011の狙いと課題認識」
ソフトウェア事業基盤専門委員会 委員長 五味 弘氏（沖電気工業（株））
- 基調講演「私の組込アーキテクト像」
東京大学（NPO法人SESSAME理事長） 飯塚悦功氏
- 事例講演「アーキテクト育成の取組み事例」
ソフトウェア事業基盤専門委員会 副委員長 春名修介氏（パナソニック（株））
- 事例講演「デジタルカメラEXILIMの開発におけるアーキテクト活動」
カシオ計算機（株） QV事業部 開発部 第三開発室 細田 潤氏
- 全員参加103人ワークショップ「アーキテクトとは？ その役割は？ 徹底議論！」

